

資源循環型施設整備事業に係る環境影響評価方法書の説明会 概要 【圏域全体②】

1 開催概要

開催日時	令和4年5月25日（水）19：00～20：14	
開催場所	サントミュージゼ	
出席者	住 民	20名（圏域住民19名）
	行 政	吉澤上田市副市長、他関係職員12名
	報道関係	3社
説明要旨	①環境影響評価 方法書の手続と今後の手続 ②事業計画の概要	

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	防災（水害対策）について	建設候補地は千曲川沿いにあり、水害で施設が稼働停止する可能性があるが、水害に対する現在の考えを教えてください。	100年に1度の確率の大雨に対しては、ごみを処理する機能を失わないこと、1000年に1度の確率の大雨に対しては、構造を守り速やかに機能復旧できることを基本として対策を講じる。 具体策として、①敷地のかさ上げ、②ごみを溜めるピットが浸水したり、ごみが外部へ流出したりしないようプラットホームを堤防より高くする、③重要機器や電機設備を高所に配置、④停電時の電力確保等を検討している。
2	ごみ減量化について	施設が新しくなれば、ごみの分別が楽になると思い込みがちだ。ごみ減量に対する住民の機運を高め、協力いただくまでには時間がかかる。早く周知を進めてもらいたい。	分別・リサイクルをはじめとするごみ減量に引き続き御協力いただけるよう、施設計画の推進と並行して住民への啓発を行っていく。

No	項目	質問・意見等	回答
3	ごみ減量化について	<p>現在、資源循環型施設の最大処理能力を 144 トン/日と算定した根拠である、可燃ごみの減量化目標を達成しておらず、このままだと処理能力不足になるのではと心配している。上田市のごみ減量化施策の進捗状況はどうか。</p>	<p>令和 2 年 8 月に「生ごみリサイクルプラン」を策定するとともに、可燃ごみに多く含まれる生ごみを資源化する有機物リサイクル施設整備について、丸子地域の塩川地区陣場台地を建設候補地として令和 3 年度から地元自治会の皆様に説明している。</p> <p>現在は、施設の基本設計及び生活環境影響調査を実施しながら、地域住民が心配している臭気対策等の検討をしており、施設整備に御理解が得られるよう、地元の皆様へ説明するための準備を進めている状況である。</p>
4	ごみ減量化（有機物リサイクル施設）について	<p>一般家庭から排出された生ごみで作る堆肥は、不純物が混ざり品質が落ちるのではないかと。品質が落ちれば堆肥の需要も無くなる。可燃ごみと生ごみの分別は実現可能なのか。</p>	<p>市内全域に生ごみの自己処理をお願いするとともに、自己処理が困難な地域を対象に、生ごみを分別収集する。生ごみの質が堆肥の品質に影響することは認識している。牛ふん等の副資材を添加して良質な堆肥を生産し、地域に還元してリサイクルしていただくことを有機物リサイクル施設のコンセプトとしており、不純物が生ごみに混入しないよう、分別方法について丁寧な説明をしながら、御理解・御協力いただけるよう取り組んでいく。</p> <p>それでも生ごみに混入してしまった不純物は、施設の処理工程で除去できる設計としたい。</p>

No	項目	質問・意見等	回答
5	ごみ減量化（有機物リサイクル施設）について	資源循環型施設と有機物リサイクル施設を一箇所にまとめれば処理効率が上がると思うが実現可能か。もしくは、分散して建設することに合理的理由があるのか。	有機物リサイクル施設の建設候補地である廃豚舎の整備が地域課題の解決に繋がること、堆肥の主な供給先となる農地が近隣にあることなどのメリットがある。施設を集中させることにより効率が上がる一方で、運搬車両も集中してしまい、周辺環境への課題が生じる。資源循環型施設建設候補地周辺の皆様には、長年に渡り処理施設を受け入れていただいている経過があり、処理施設を集中させずに分散させることが必要と判断した。
6		プラスチック等をまとめて焼却処理している自治体は、ごみ出しが楽だと住民から評判がいいようだ。生ごみの分別を新たに増やすことは住民負担となるが、それでも世界的な脱炭素や循環型社会の考えから、住民の協力を得て取り組んでいくという理解でよいか。	<p>広域連合及び上田市では、ごみの減量、燃やすごみを減らすことが基本と考えている。</p> <p>国内でも、脱炭素社会への取組や、プラスチックの資源循環に係る法律が施行されるなど、循環型社会への移行が強化されている。</p> <p>我々が生活する上で必ずごみは出てしまうが、その中でひと手間かけていただき、ごみの減量・再資源化に御協力いただきたい。</p>